

医療入門(全人的医療基礎講義含む)

ナンバリング M1-S1-F02

責任者・コーディネーター	医学教育学分野 高田 亮 教授		
担当講座・学科(分野)	医学部、医学教育学分野、地域医療学分野、教育支援システム開発分野、リハビリテーション医学講座、衛生学公衆衛生学講座、総合診療医学講座、教養教育センター		
担当教員	高田 亮 教授、小笠原 邦昭 学長、下沖 収 教授、伊藤 智範 教授、前沢 千早 教授、西村 行秀 教授、中島 理 教授、会田 薫子 客員教授、川田 龍平 客員教授、赤坂 憲 准教授、相澤 純 特任講師、田島 克巳 非常勤講師、遠野 千尋 非常勤講師、塩井 義裕 非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 20コマ 40.0時間
期間	前期/通期		演習 0コマ 0.0時間
			実習 50コマ 100.0時間

・学習方針(講義概要等)

医師という職業は、知識があることを求められているのではなく、目の前にいる患者さんの問題を解決するために知識を活用できることを求められる職業である。令和5年度からは、医師法改正に伴い、student doctorの立ち位置が明確になり、従来は卒後に求められた医師としての在り方を在学中の4年生から求められることになり、倫理的に問題となることは法的処罰の対象となりうる。そういった意味で、早期からプロフェッショナルリズムを意識し、その内在化(社会が有する価値と規範を、自分の価値と規範として受け入れる→正しい振る舞いが自然にできる)が求められる。

医療入門を通して、プロフェッショナルリズムの内在化のために必要となる学問・行動を認知・体験し、省察することを本講義の目的とする。

・教育成果(アウトカム)

Early clinical exposureの第一段階として、医療機関での医療・地域医療・医療行政・看護・介護の現場の一端にふれること、初歩的な救命処置を身につけること、および、医療のプロフェッショナルリズム、全人的医療という概念を早期に学修することで、医学生としての自覚を高めるとともに、これから学ぶ医学専門教育の重要性について説明できる。

医療入門の各プログラムを体験することで、今後学習する科目の必要性をプロフェッショナルリズムの観点に立って考察し、6年間の行動目標を立案できる。

(ディプロマ・ポリシー: 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標(SBOs)

No.	項目
1	授業や体験学習を踏まえて、自身の医師像とキャリアの方向性を論理的に言語化し、今後の具体的行動計画を示すことができる。
2	医師の態度・行動規範を説明し、プロフェッショナルリズムの内在化に必要な学問や行動を具体例とともに示し、自己の行動改善に反映できる。
3	薬害、エンドオブライフ、リスク・ベネフィットの視点など医療の倫理的課題を説明し、医療者としての責任や対応のあり方を論じることができる。
4	患者・家族・医療スタッフと良好な関係を築くためのコミュニケーションの基本原則を説明し、共感的態度の意義を述べるができる。
5	人生の最終段階にある患者と家族のQOLに配慮した関わり方を説明し、適切な態度・配慮事項を列挙できる。
6	日本および岩手県の医学・医療の現況・展望を説明し、本学ならびに卒後に果たす医師の役割を明確に述べるができる。
7	地域医療の現状を把握し、問題点を抽出したうえで、根拠に基づく解決策を考察し提案できる。

8	社会保障制度を担う医療機関と非医療機関の違いを理解して、地域医療に果たす役割を説明できる。
9	介護の概念と現場の実際を概説し、介護の必要性・課題・医療との関係性を説明できる。
10	医師・看護師を含む多職種役割、チーム連携、責任体制を説明し、連携の意義と実践上の留意点を述べるができる。
11	初歩的な救急蘇生法（BLS）およびバイタルサインの測定を、安全かつ正確に実施できる。
12	漢方医学の特徴と主要な和漢薬の適応を概説し、現代医療における位置づけと注意点を説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-A講義室 実習：県内外の医療機関・保健福祉施設・行政機関等

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	4/15(水)	4	総合診療医学講座	下沖 収 教授	医学・医療の現況と展望	1,2,3,6	【事前学修】 本学HPを確認し、本学の理念や建学の精神を調べておくこと。（所要時間 30分） 【事後学修】 シラバス記載（成績評価方法欄）のとおりレポートを提出する。（所要時間 60分） 【ICT】 レポートをWebClassに提出する。
講義	5/15(金)	4	医学部	遠野 千尋 非常勤講師	【特別講演】地域医療について1	6,7,9	【事前学修】 地域で生活する療養者が抱える課題について自分なりの考えをまとめておく。（所要時間 60分） 【事後学修】 シラバス記載（成績評価方法欄）のとおりレポートを提出する。（所要時間 60分） 【ICT】 レポートをWebClassに提出する。
講義	5/27(水)	4	医学部	塩井 義裕 非常勤講師	【特別講演】地域医療について2	6,7,9	【事前学修】 地域で生活する療養者が抱える課題について自分なりの考えをまとめておく。（所要時間 60分） 【事後学修】 シラバス記載（成績評価方法欄）のとおりレポートを提出する。（所要時間 60分） 【ICT】 レポートをWebClassに提出する。
講義	5/29(金)	4	学長	小笠原 邦昭 学長 中島 理 教授	【全人的医療基礎講義】 学長講義	1,2,6	【事前学修】 シラバスに記載されている学則第1条第1項を読み、「誠の人間」について自分なりの考えをまとめておく。（所要時間 60分） 【事後学修】 シラバス記載（成績評価方法欄）のとおりレポートを提出する。（所要時間 90分） 【ICT】 レポートをWebClassに提出する。

講義	6/3(水)	4	医学教育学分野	高田 亮 教授	医療プロフェッショナルリズム講義	2,4	<p>【事前学修】 事前課題「あなたの目指す医師像とそれを達成する過程として大学6年間でやらなければならないこと」を作成し提出する。事前学習ビデオを視聴する。(所要時間 90分)</p> <p>【事後学修】 シラバス記載(成績評価方法欄)のとおりレポートを提出する。(所要時間 90分)</p> <p>【ICT】WebClass事前学習用ビデオをWebClassにアップする。 事前レポート、事後レポートをWebClassに提出する。</p>
実習	6/10(水)	3	医学教育学分野 医学教育学分野	相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	<p>グループ13~24 医療学入門(BLS実習・漢方医学基礎) 災害時地域医療支援教育センターで実施</p> <p>グループ1~12はバイタルサイン実習 他</p>	4,11,12	<p>【事前学修】 BLSグループ：動画を見ながら、実際にマネキンを用いてBLSの練習を行い、何も見ずに正しく行えるようになっておくこと。(所要時間 60分) バイタルサイングループ：OSCE用動画を視聴し、手順を確認しておくこと。(所要時間 60分) 漢方グループ：漢方の基礎的知識に関する事前動画を視聴し、理解しておくこと(所要時間 60分) 接遇グループ：プロフェッショナルリズムについて講義の内容を再度復習しておくこと(所要時間 60分)</p> <p>【事後学修】 BLSグループ：実際の現場でも対応できるよう救命処置の手順、ポイントについてまとめておくこと。(所要時間 60分) バイタルサイングループ：看護実習時に患者さんに実際に行えるよう手順、ポイントについてまとめておくこと。(所要時間 60分) 漢方グループ：講義で学んだ漢方医学の特徴と診断・治療法についてのポイントをまとめておくこと。(所要時間 60分) 接遇グループ：患者さん、医療スタッフと係わる時に、医学生として必要な態度、コミュニケーションについてまとめておくこと。(所要時間 60分)</p> <p>【ICT】WebClass</p>
実習	6/10(水)	4	医学教育学分野 医学教育学分野	相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	<p>グループ13~24 医療学入門(BLS実習・漢方医学基礎) 災害時地域医療支援教育センターで実施</p> <p>グループ1~12はバイタルサイン実習 他</p>	4,11,12	<p>【事前学修】 6/10 3限に同じ。</p> <p>【事後学修】 6/10 3限に同じ。</p> <p>【ICT】レポートをWebClassに提出する。</p>
実習	6/17(水)	3	医学教育学分野 医学教育学分野	相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	<p>グループ1~12 医療学入門(BLS実習・漢方医学基礎) 災害時地域医療支援教育センターで実施</p> <p>グループ13~24バイタルサイン実習 他</p>	4,11,12	<p>【事前学修】 6/10 3限に同じ。</p> <p>【事後学修】 6/10 3限に同じ。</p> <p>【ICT】レポートをWebClassに提出する。</p>

実習	6/17(水)	4	医学教育学分野 医学教育学分野	相澤 純 特任講師 高田 亮 教授	グループ1~12 医療学入門 (BLS実習・漢方医学基礎) 災害時地域医療支援教育センターで実施 グループ13~2バイト アルサイン実習 他	4,11,12	【事前学修】 6/12 3限に同じ。 【事後学修】 6/12 3限に同じ。 【ICT】レポートをWebClassに提出する。
講義	7/6(月)	3	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	地域医療体験実習 事前学修	1,6,7,9,10	【事前学修】 【事後学修】 映画聴講のレポートを作成、KJ法によるPBLの成果物を提出する。(所要時間90分) 【ICT】レポートをWebClassに提出する。
講義	7/6(月)	4	地域医療学分野	伊藤 智範 教授	地域医療体験実習 事前学修	1,6,7,9,10	【事前学修】 【事後学修】 7/6 3限目に同じ 【ICT】レポートをWebClassに提出する。
実習	7/23(木) ~ 7/24(金)		地域医療学分野	伊藤 智範 教授	地域医療体験実習	1,6,7,9,10	【事前学修】 実習に行く施設の情報収集とその地域の医療状況を調べておくこと。(所要時間60分) 【事後学修】 シラバス記載(成績評価方法欄)のとおり提出物をまとめ、期日までに提出する。(所要時間90分) 【ICT】レポートをWebClassに提出する。
講義	8/31(月)	1	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲 准教授	介護体験実習事前講義	1,4,8,9,10,11	【事前学修】 介護体験実習ガイダンスの内容を復習すること。(所要時間60分) 【事後学修】 資料の内容を復習すること。(所要時間60分) 【ICT】ガイダンスの資料や配布資料をWebclassに公開する。
講義	8/31(月)	2	衛生学公衆衛生学講座	赤坂 憲 准教授	介護体験実習事前講義	1,4,8,9,10	【事前学修】 ガイダンスに加えて、事前講義の内容を頭に入れること。(所要時間60分) 【事後学修】 演習における誤答や難問を中心に、ガイダンスや事前資料を用いて復習を行い、実習に備える。 (所要時間60分) 【ICT】ガイダンスの資料や配布資料をWebclassに公開する。
講義	8/31(月)	3	リハビリテーション医学講座	西村 行秀 教授	リハビリテーション 医学入門【講義室】	4,8	【事前学修】 リハビリテーションに係わる医療スタッフについて調べておくこと (所要時間60分) 【事後学修】
講義	8/31(月)	4	教育支援システム開発分野 地域医療学分野 医学教育学分野 リハビリテーション医学講座	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 西村 行秀 教授	障がい体験実習	4,8,11	【事前学修】 【事後学修】 振り返りにある項目を記載し、グーグルフォームに提出する。(所要時間60分) 【ICT】グーグルフォームで振り返りを提出する。

講義	8/31(月)	5	教育支援システム開発分野 地域医療学分野 医学教育学分野 リハビリテーション医学講座	前沢 千早 教授 伊藤 智範 教授 相澤 純 特任講師 西村 行秀 教授	障がい体験実習	4,8,11	【事前学修】 【事後学修】 8/31 4限に同じ。 【ICT】 グーグルフォームで振り返りを提出する。
講義	9/10(木)	4	医学教育学分野 医学教育学分野	田島 克巳 非常勤講師 高田 亮 教授	プロフェッショナル ズムPBL グループ 1~12は PBL① 不正を考える・医療プロフェッ ショナルリズム グループ13~24は PBL② 附属病院の 投書から学ぶ態度や 行動	1,2,3,4	【事前学修】 【事後学修】 PBLで作成した成果物、課題レポートに 記入漏れがないかを確認し、提出する。 ピア評価、アンケートを記入し提出す る。 (所要時間 90分) 【ICT】 レポートをWebClassに提出す る。

講義	9/10(木)	5	医学教育学分野 医学教育学分野	田島 克巳 非常勤 講師 高田 亮 教授	プロフェッショナル リズムPBL グループ1~12は PBL① 不正を考え る・医療プロフェ ッショナルリズム グループ13~24は PBL② 附属病院の 投書から学ぶ態度や 行動	1,2,3,4	【事前学修】 【事後学修】 9/10 4限に同じ。 【ICT】レポートをWebClassに提出す る。
講義	9/18(金)	1	医学教育学分野 医学教育学分野	田島 克巳 非常勤 講師 高田 亮 教授	プロフェッショナル リズムPBL グループ13~24は PBL① 不正を考え る・医療プロフェ ッショナルリズム グループ1~12はPBL ② 附属病院の投書 から学ぶ態度や行動	1,2,3,4	【事前学修】 【事後学修】 8/31 4限に同じ。 【ICT】ゲージフォームで振り返りを提 出する。
講義	9/18(金)	2	医学教育学分野 医学教育学分野	田島 克巳 非常勤 講師 高田 亮 教授	プロフェッショナル リズムPBL グループ13~24は PBL① 不正を考え る・医療プロフェ ッショナルリズム グループ1~12はPBL ② 附属病院の投書 から学ぶ態度や行動	1,2,3,4	【事前学修】 【事後学修】 8/31 4限に同じ。 【ICT】ゲージフォームで振り返りを提 出する。
講義	9/25(金)	4	医学部	会田 薫子 客員教 授 中島 理 教授	【全人的医療基礎講 義】 長寿時代のエンドオ ブライフ・ケア	3,5	【事前学修】 エンドオブライフ・ケアについて調べ る。(所要時間 60分) 【事後学修】 シラバス記載(成績評価方法欄)のと おり提出物をまとめ、期日までに提出 する。(所要時間 60分) 【ICT】レポートをWebClassに提出す る。
実習	10/6 ~ 10/9, 10/13 ~ 10/16		医学教育学分野	高田 亮 教授	看護・介護体験実習 医師シャドウイング	1,4,9,10	【事前学修】 介護保険制度、実習先の施設について調 べておくこと。チーム医療における医 師、看護師の役割について調べておく こと。(所要時間 60分) 【事後学修】 提出物をまとめ、期日までに提出する。 所要時間 60分
実習	11/4(水)		地域医療学分野	伊藤 智範 教授	地域保健介護福祉見 学研修	1,6,7,8,9 ,10	【事前学修】 実習先で収集すべき情報についてリス トアップしておくこと。所要時間 60分 【事後学修】 グループ内でディスカッションし、発 表スライドを作成して提出すること。(所 要時間 90分) 【ICT】プレゼンスライドをWebClassに 提出する。
講義	11/9 (月) 11/13 (金) 11/30 (月) のい ずれ か	1 4 1	医学部	招聘講師 中島 理 教授	【全人的医療基礎講 義】 薬害を考える 薬害を学ぶ事で、医 療者の責任を学ぶ。	2,3,6	【事前学修】 薬害について調べる。(所要時間 60 分) 【事後学修】 シラバス記載(成績評価方法欄)のと おり提出物をまとめ、期日までに提出 する。(所要時間 60分) 【ICT】WebClass

講義	12/4(金)	4	医学部	川田 龍平 客員教授 中島 理 教授	【全人的医療基礎講義】 薬害を考える-いのちが守られる社会の実現のために-	2,3,6	【事前学修】 薬害エイズ事件について調べる。(所要時間 60分) 【事後学修】 シラバス記載(成績評価方法欄)のとおり提出物をまとめ、期日までに提出する。(所要時間 60分) 【ICT】レポートをWebClassに提出する。
講義	12/14(月) 12/18(金) のいずれか	1 1	医学部	招聘講師 中島 理 教授	【全人的医療基礎講義】 薬害を考える-いのちが守られる社会の実現のために-	2,3,6	【事前学修】 薬害について調べる。(所要時間 60分) 【事後学修】 シラバス記載(成績評価方法欄)のとおり提出物をまとめ、期日までに提出する。(所要時間 60分) 【ICT】WebClass
実習	12/11(金)		地域医療学分野 医学教育学分野	伊藤 智範 教授 高田 亮 教授	地域保健介護福祉見 学研修 報告会	1,6,7,8,9 ,10	【事前学修】 グループ内でディスカッションし、発表スライドを作成して提出すること。(所要時間 90分) 【事後学修】 医療入門全体のポートフォリオを作成し、振り返りを行う。(所要時間 60分)

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	医学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改定版)		文部科学省 ホームページ内PDF	2022
教科書	診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目(1.1版)	医療系大学間共用試験 実施評価機構	左記ホームページ内 医学系OSCE公開資料より 入手	2025
教科書	基本がわかる 漢方医学講義	日本漢方医学教育協議会	羊土社	2020
推薦図書	全人的医療入門 医療に関わるすべての人のために	中井吉英	中山書店	2013
推薦図書	ものがたりで考える医師のためのリベラルアーツ	湯浅正太	MEDICAL VIEW	2022
参考書	長寿時代の医療・ケア —エンドオブライフの論理と倫理—	会田薫子	筑摩書房	2019
参考書	延命医療と臨床現場 —人工呼吸器と胃ろうの医療倫理学—	会田薫子	東京大学出版会	2011
参考書	ACPの考え方と実践 —エンドオブライフ・ケアの臨床倫理—	会田薫子	東京大学出版会	2024
参考書	龍平：生き抜く勇気を —いのちを守る世界をつくるために	川田龍平	高文研	2022
参考書	医療格差	川田龍平	角川グループ パブリッシング	2011

推薦図書	この国はなぜ被害者を守らないのか	川田龍平	PHP	2013
推薦図書	沈みゆく大国アメリカ ＜逃げ切れ!日本の医療＞	堤未果	集英社	2015

・成績評価方法

【総括評価】

- ・本科目では、到達目標を3つのカテゴリーに整理し、それぞれの達成度を評価する。
- ・具体的には3カテゴリー別に100点満点換算し、各カテゴリーで60点以上を合格条件とする。総合評価は、3カテゴリーの平均点を用いるが、60点以下のカテゴリーがあった場合は、その点数（複数ある場合は最低点）を総合評価とする。
- ・必修技能（バイタル実習）は、カテゴリー3の中でも個別必須条件とし、不合格の場合は補講・再試を行う。
- ・本科目では、自分で考える力を養うことを重視するため、レポートや課題の作成において、生成AI（ChatGPT等）を使用することは認めない。AIを用いた文章生成や解答は、学習の本質を損なう行為とみなし、評価対象外とする。疑義が生じた場合は、面談や追加課題を課す場合がある。
- ・特段の事由なく欠席した授業に対するレポートに関しては、提出があっても評価しない。また、特段の理由なく期限を過ぎて提出された提出物は、通常評価点で採点し、その6割を評点とする。

《カテゴリー1 医療プロフェッショナリズム：到達目標1-5》

1. 医学部長講義(4/15)、高田講義(6/3) 30%
 - (1) それぞれの講義内容を400字以内で要約し、WebClassに提出する。提出期限については、各講義終了2週間以内とする(実際の提出期限は掲示する)。
 - (2) これらの講義、ならびに特別講演(5/15, 5/27)・全人的医療基礎講義1(5/29)を受けて、「目指す医師像に向けて6年間でやらなければならないこと」を全て箇条書きにする。
 - (3) (2)で抽出した「やらなければならないこと」のうち、最も重要と考える3つの内容について、6年間の到達目標と具体的な行動(いつまでに…をするという形で)を、各々500字以内にまとめる。
 - (4) (2)と(3)を1つにまとめ、レポートとして提出する。提出期限は高田講義の終了2週間以内とする(実際の提出期限は掲示する)。
2. 全人的医療基礎講義(全5回,日程未定) 40%

各講義終了後に講義の内容(簡潔に)と、講義を受けての自身の考え(感想文ではない)を800-1200字でレポートにまとめ、WebClassに提出する。提出期限については、講義終了後2週間以内とする(実際の提出期限は掲示する)。
3. プロフェッショナリズムPBL(9/10, 9/18) 30%

提出物、ピア評価の提出状況などで評価する。(提出物の内容、ピア評価の評価基準については授業内で提示する。)

《カテゴリー2 地域医療：到達目標6-8》

1. 地域医療特別講演(5/15, 5/27) 20%

各講義終了後に講義の内容を踏まえて、医師になった後、地域医療をどう進めるべきなのか自身の考え(感想文ではない)を800-1200字でレポートにまとめ、WebClassに提出する。提出期限については、講義終了後2週間以内とする(実際の提出期限は掲示する)。
2. 医療体験実習(7/6, 7/23-24) 40%

映画視聴感想文(感想とPBLを踏まえて、医師を目指す自らの心構えを記載する)実習報告(実習を踏まえて、地域医療に関する自らの考えを論じること：単なる実習内容の要約ではない)レポート提出(800~1000字)
3. 地域保健介護福祉見学研修(11/4, 12/11) 40%

保健介護福祉見学研修の内容で評価をおこなう。

《カテゴリー3 体験・基本的手技・漢方：到達目標9-12》

1. BLS/漢方/バイタル/接遇実習(6/10, 6/17) 20% [バイタル実習は個別必須]
 - (1) BLS実習：実技試験時の指導者評価で評価を行う。
 - (2) 漢方講義：実習終了時に行う小テストで評価を行う。
 - (3) 接遇実習：医学生に求められる態度・姿勢について記載したレポートで評価する。
 - (4) バイタル実習：実技評価(OSCE)を行う。
2. 障がい体験実習(8/31) 10%

提出物(振り返り)および実習態度で評価を行う。
3. 看護介護体験実習(10/6-10/9, 10/13-16) 50%

事前提出物、レポート、看護・介護日誌、介護施設および看護部から提出された評価票をもとに採点する(代替え授業になった場合には、レポート、指導者評価などで採点を行う)。
4. シャドウイング実習 20%

事前・実習中・実習後に行うレポートで評価を行う。医師の業務の内容、帯同した感想、将来のキャリア選択に向けた変化についてのレポートを作成する。

【形成的評価】

学外実習での指導者評価について担当事務よりフィードバックを個別に行う。入門・全人の講義レポートについては、文章の書き方の基本を含め、フィードバックをまとめて行う。
 アンプロフェッショナルな行動（レポートを期限までに提出しない、無断欠席が目立つ、実習施設での態度評価が芳しくない、など）については面談を行ない、改善が認められない場合には追加の課題の提出を求める。

◎事前課題（形成的評価に使用）

「あなたの目指す医師像とそれを達成する過程として大学6年間でやらなければならないこと」について800字～900字でレポートにまとめ、医療入門の最初の講義の前日（4/15）までにWebClassで提出する。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1,2	1,2,8		10				4	14
3,4,5	1,2,3,4,5,6		15				4	19
6,7,8	7,8		15			6	12	33
9,10	5,6		10				16	26
11	3,5						5	5
12	4,7			3				3
合計			50	3		6	41	100

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

講義資料はWebclassで配信する。

地域医療体験実習、介護体験実習、看護体験実習、医師シャドウィング実習中は、スマートフォン・タブレットPCなどの電子デバイスの持ち込みおよび使用を一切禁止する。電子デバイスの使用は、院内感染のリスクを高めるだけでなく、撮影・録音等の有無にかかわらず患者情報の漏えいにつながる重大な問題を引き起こす可能性がある。これらの理由から、病院実習の円滑かつ安全な実施のため、本規則を必ず遵守すること。

当該科目に関連する実務経験の有無 有
 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度版）、参考書、講義室、実習室、心肺蘇生シ

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	1	講義